

平成31年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①研究授業や授業見学を更に活性化させ、学校全体としての組織的な授業改善を推進する。</p> <p>②基礎学力の充実を図ると同時に、各科やクラス内における学力の偏りに対応する授業等の実践を目指す。</p> <p>③カリキュラムや各行事の充実を図りながら、授業時数の確保を目指す。</p>	<p>①55分授業を活用した、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるために、計画的・組織的な研修を行う。</p> <p>②基本的な学習習慣の定着、基礎学力の充実を図り、職員全体で個々の生徒の状況を共有し思考力・判断力・表現力を養成する授業を実践する。</p> <p>③新教育課程の研究を進め、効果的で有効な教育課程の編成を進める。</p>	<p>①「主体的・対話的で深い学び」を目標とした年2回の公開授業を実施。生徒による授業評価の結果を分析し、授業改善学習会を実施する。</p> <p>②基礎力診断テストの実施、マナビジョンの活用を通じ、個々の生徒の学力・学習への取組状況を研修会等により職員で共有する。</p> <p>③新教育課程の編成のためカリキュラム検討委員会を設置する。</p>	<p>①授業改善を目途とした授業見学期間(2回)を設け、他教科を含め2回以上他者の授業を参観したか。また、55分授業の活用や授業改善のための研修会や学習会を実施できたか。</p> <p>②基礎力診断テストの結果を基にした職員研修会を2回行ったか。また、全教科で診断テストの結果を活用し生徒の苦手分野を把握したうえで、改善に向けた授業の工夫ができたか。</p> <p>③新教育課程の編成が進展したか。</p>	<p>①授業改善を目途とした授業見学期間を2回設けた。他教科を含めた2回以上の授業見学を実施した。見学状況の揭示や呼びかけを実施した。</p> <p>②基礎力診断テストの結果を基にした職員研修会を担当対象に行った。テスト結果やマナビジョンの活用により生徒の苦手分野を把握したうえでの指導が実施できた。</p> <p>③カリキュラム検討委員会を設置し、新教育課程の編成を進めた。</p>	<p>①教職員の授業見学を更に活性化させるために、システムの改善、感想等の集約を全職員へ周知、生徒による授業評価の活用を推進し、授業改善を進めた。</p> <p>②基礎力診断テストの結果を活用した授業実践に向け、資料を全職員が共有できる環境を整える。</p> <p>③カリキュラム検討委員会で新教育課程の編成を更に進め、骨子案を作成したい。</p>	<p>①教職員が他教科の授業見学をすることで積極的な意見交換が可能になる一方、教職員自身が自己の授業を振り返り、授業改善の工夫に繋がるよう考えるので積極的に参加を促してもらいたい。継続が生徒の学力向上に繋がる。</p> <p>①専門教科については教職員が連携し、生徒一人ひとりと向き合い指導している。各種検定の合格がその証である。</p>	<p>①②今年度、授業を参観した教職員の見学回数は述べ96件、その内、他の教科の授業を参観した見学回数は述べ55件であった。授業改善を目途として互いの授業を見合うことは勿論大切であるが、組織的な対応が求められている。教員一人ひとりの実践的指導力の向上に職員研修会は不可欠である。</p> <p>③カリキュラム検討委員会を設置した。次年度、教育課程の編成を本格的に進めたい。</p>	<p>①②授業改善に係る研修会や学習会には、明確なテーマ設定が必要である。例えば、ICTの利活用を目途とした教職員のスキルアップをテーマとするなどの工夫をしたい。</p> <p>③県教育委員会の教育課程説明会等、国や県の動向を踏まえたい。改訂される学習指導要領の趣旨に基づいて本校の新しい教育課程を編成したい。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒が安全・安心に学校生活を送るための指導を充実させ、生徒自らが主体的に行動し、新たな社会的課題に対応できる人材の育成を図る。</p> <p>②学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p> <p>③部活動の活性化を通して、問題解決能力を育み責任感や連帯感の涵養を図る。</p>	<p>①生徒一人ひとりに対応した生活指導を徹底し、社会人としてのルール・マナーを定着させる。</p> <p>②個々の生徒の状況に応じた組織的な相談体制を構築し、円滑な学校生活を送るための支援をする。</p> <p>③新校地での学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p> <p>④部活動、同好会、各委員会、農業クラブ、商友会の活動の活性化を推進する。</p>	<p>①挨拶を励行するとともに、服装・頭髪等の身だしなみを徹底して、生徒の規範意識の向上を図る。</p> <p>②また、携帯電話やSNS等の正しいマナーの徹底を図る。</p> <p>②地域と連携し新校地での自転車通学・交通安全指導を徹底する。</p> <p>③生徒の困り感を見逃さないために、組織的かつ迅速な対応を目指すとともに教育相談コーディネーターを活用する。</p> <p>④学校行事において生徒主体の生徒会活動を支援する。</p>	<p>①集会や講演会を充実させ、日常的な挨拶や身だしなみを徹底し、携帯電話の使い方や交通安全等のマナー教育を図ることができたか。</p> <p>②交通事故を防げたか。</p> <p>③個々の生徒の情報共有を図り事故を未然防止するとともに、生徒指導に係る課題を減少させることができたか。</p> <p>④生徒と教員の情報共有を図ることで、生徒主体の学校行事の運営ができたか。</p>	<p>①頭髪・服装の身だしなみ指導を月1回実施するとともに、1年生に制服着こなし講座を実施した。携帯電話、喫煙・薬物乱用防止講座等を実施し、生徒の規範意識を高めた。</p> <p>②交通安全講演会を実施し、増加した自転車通学の事故防止に努めた。自転車同士の接触事故1件、自動車との接触事故が1件発生した。</p> <p>③新校地で生徒会本部や実行委員を中心に、学校行事を遂行した。相陵祭の来校者数は2日間で4,735名だった。</p> <p>④卓球部や女子バレー部を中心に全国レベルの活躍をした。農業クラブや商友会活動も盛んに活動できた。</p>	<p>①全校集会、学年集会で身だしなみ、携帯電話マナー、交通ルールについて指導し規範意識を高めた。課題として自転車通学路における交通マナーの遵守があげられる。</p> <p>②旧校地駐輪場からの通学路指導を行ったが、今後は旧校地駐輪場からだけでなく、通学路全般の交通安全指導を定期的に行う必要がある。</p> <p>③生徒主体の学校行事運営を支援してきた。4年間の学校教育計画の中で、徐々に生徒主体の取組が達成できてきたが、まだまだ努力が必要である。</p> <p>④4年前の部活動加入率は61.1%であったが、今年度は50.3%となった。来年度は部活動勧誘に励みたい。</p>	<p>①講演会・講習会をさらに充実させ、特に生徒の交通安全対策には引き続き注意をお願いしたい。</p> <p>①社会人としてのルール・マナーの定着に向け引き続き指導をお願いしたい。</p> <p>②生徒には交通ルール、自転車のマナーの徹底が必要で、自分の命を守り加害者にならないという意識が大切である。</p>	<p>①始業式や終業式などの全校集会や各学年集会等で社会で暮らす一員としてのマナー教育に取り組むことができた。</p> <p>②登下校に自転車を使用する生徒の実態調査を行った。次年度は調査の結果を分析し、事故の未然防止に活用したい。</p> <p>③いじめに係る生徒アンケートを実施した。生徒の生の声を取り上げ指導に活かしたい。</p> <p>④新校舎・新校地で執り行う学校行事は、すべて入念な計画と不確実性への対応が求められる。従前どおりにはならないことを意識して進めた。</p>	<p>①②登下校時の生徒の自転車運転マナーについては課題が多い。実態調査の結果にもよるが、例えば通学方面ごとにも生徒への指導を行うとか、生徒の利用の多い交差点を中心に自転車乗車指導を行う等の具体的な取組を実施したい。</p> <p>③生徒指導における対応マニュアルは大切であるが、個々の生徒の困り感に迅速に対応するには教職員の情報共有に優るものはない。管理職を含め教職員間のコミュニケーションづくりに注力したい。</p>

3	進路指導・支援	<p>専門性の高い知識と技術を育み、社会の動向に柔軟に対応できる産業人として、社会人基礎力を主体的に身につけるとともに、産業構造の変化や社会のニーズ等に対応した人物育成を推進する。</p>	<p>①生徒個々の進路に応じた、多様で専門性の高い知識と技術を育成する。 ②収集したデータを活用し、学年に応じたガイダンスを計画的に行う。志望大学の入試や就職する企業に見合ったマナーや基礎学力の定着を目指す。</p>	<p>①インターンシップ・農業体験等地域や産業界と連携した活動を通じて生徒の勤労観・職業観を育成し、多様な進路選択に対応した学習活動の充実を図る。 ②進学希望者に対しては主体的に情報を収集して絞り込むための進路行事を、就職希望者にはマナー指導やガイダンスを実施して、生徒が自主的に進路選択できるように指導する。</p>	<p>①勤労観・職業観を育成し、地域や産業界との連携を図るためのインターンシップ等の参加が前年度の実績を超えたか。 ②生徒の進路状況や生徒対象のアンケートを活用することで、生徒の進路意識を高めることができたかを検証する。</p>	<p>①インターンシップ18名、農業体験9名の計27名が就労体験活動に参加した。 ②今年度は高大接続改革の方法が定まらず受験生には不安であったと推測される。本校でほとんどの生徒が例年通りAOや指定校、公募制の推薦を利用して進路先を決めていた。就職者のガイダンスでは、就職希望生徒の意識や技能が向上し、実際の面接ではどの事業所でも好評であった。</p>	<p>①現状として、インターンシップや農業体験は準備から修了まで手がかかり、現在の体制を保つのがやっつとである。多くの生徒にこのような体験をさせるための工夫が課題である。 ②来年度以降、どのような大学入試になるのか不安である。今年度は進学者が卒業生全体の7割以上、就職者が2割以上を達成できた。就職希望者は100%就職先を決めている。現在の実績が残せるよう着実な指導を引き続き行いたい。</p>	<p>①就職希望の意識や技能が向上し面接でも好評を得たことは、インターンシップ等を通じた勤労観・職業観の育成の成果と考える。引き続きの指導を願いたい。 ②就職決定者数に対し、就労体験者数の割合がやや少なく感じる。担当は大変でしょうが生徒全員が体験できれば良いと思う。</p>	<p>①インターンシップは受け入れ先の充実により参加した生徒には好評であった。 ②夏季休業中に3年生を対象とした就職サポート講座を実施した。参加した生徒は勿論のこと生徒の保護者からも好評を得ることができた。組織的な業務運用面に課題もある。担当者の転勤等に係る引継ぎを行い、業務継続に滞りの無いようにしたい。</p>	<p>①②地域や産業界との連携や校内業務体制の継続には、組織的な取組が重要と考える。例えば、特定の担当者任せとならないよう若手教職員等への引き継ぎを目途とした職場研修会を実施するなどの工夫をしたい。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域産業界と連携し、個性豊かな人間性や社会性を培うために、農業科・商業科それぞれの高い専門性の知識と技術を活かしつつ「主体性・多様性・協働性」を兼ね備え、社会に貢献することができる生徒の育成を実現していく。 ②社会の動向に柔軟に対応できる産業人の育成に向けた専門教育活動の充実を図る。</p>	<p>①新校舎移転に伴い、地域の企業、団体とのさらなる連携を推進する。 ②農業3学科、総合ビジネス科のそれぞれの技術や知識を活用し、生徒の教育活動との連携を深める。</p>	<p>①4学科全体で10事業以上の企業や団体との連携を実施し、生徒が自ら考え行動する機会を増やす。 ②新設された直売所の運営について、農業科と総合ビジネス科で連携し積極的な運営を目指す。</p>	<p>①生徒の専門性を高め、産業社会に貢献することができるような教育活動の取組が、4学科で10事業以上実施することができたか。 ②直売所の運営について、農業科と総合ビジネス科で連携し、積極的な運営を行うことができたか。</p>	<p>①橋本公民館の連携事業への参加、酒まんじゅう作り教室開催、若葉まつりや橋本七夕まつりでの販売など、専門性を高めるような取組を4学科で15事業以上実施した。 ②直売所では、畜産科学科や総合ビジネス科で販売70回実施し、来客者数は3,300名であった。</p>	<p>①生徒の専門性をより高められるよう、教育活動を検討する必要がある。 ②農業科や商業科が、学科の枠を超えて連携するとともに直売所をより活気あるものにしていきたい。</p>	<p>②直売所の開催、各種イベント等に数多く参加していることに驚き感激した。</p>	<p>①3年生が取り組む課題研究の授業では、地域との連携が進んでいる。例えば、近隣小学校の6年生を対象とした地域連携講座を予定している。 ②校内体制を整備し次年度からの運用を充実させたい。</p>	<p>①②農業科、商業科相互の立場を理解しあひ、専門高校としての長所を生かし、豊かな情操と高い教養を養うためには地域産業界との連携は必須である。今後もなお一層の生徒の活動を支援したい。特に、直売所の運用については、本校の教育活動の充実を目途として具体化したい。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①様々な事故を防ぐため、全職員の組織的な取り組みを進める。 ②災害発生時の体制作りを進める。 ③教育環境の整備を推進する。</p>	<p>①新校舎移転に伴いネットワークを中心とした環境の整備を行う。 ②各種重要データの管理マニュアルなどを完成させる。 ③防災備蓄品の整備や災害発生時のマニュアル等整備を進める。 ④新校舎での教育環境の整備等を行う。</p>	<p>①教職員各個人が利用している校務PCの更新や農業科の管理や体育準備室に配置する共有PCの確保などを行う。 ②前年度に引き続き管理マニュアルの細部の検討を行う。 ③防災備蓄品の整備・更新を計画的に進める。相模原市や地域と災害時の連携に向け情報収集、連携体制の構築を図る。 ④新校舎での課題を整理し改善に向け対応する。</p>	<p>①何台の校務用や共用のPCが更新できたか、機器の不具合による校務への支障が数日にまたがなかったか。 ②成績処理作業などで、事故防止が図られたか。 ③防災備蓄品の整備・更新が進められたか。地域との連携体制の構築、防災マニュアル等の整備ができたか。 ④新校舎での課題に対応し、教育環境の整備が進められたか。</p>	<p>①教職員個人使用校務PCから学校調達品をほぼ一掃できた。その結果、管理室や体育準備室に共用品を配置可能である。 ②学期末の成績処理期間中に各種行事がたてこんだが各教職員の努力で事故は起きなかった。 ③1学年の備蓄食料及び毛布やマット、救急用品などを新たに整備した。新校舎での防災マニュアル、避難所設営初動マニュアルの更新作成を行った。 ④新校舎の清掃に適した用具をはじめマットなどの購入を進め、生徒、職員の要望を踏まえ、教育環境の整備に努めた。</p>	<p>①学校調達品が数台残されているので次年度以降一掃したい。 ②教職員用だけでなく生徒用タブレットなども含めて情報機器の管理についてもマニュアルの検討を図っていきたい。 ③防災備蓄品の在庫・期限等のチェックを行い、必要数の確保と更新を計画的に進めていく。地域との連携について引き続き協議を進める必要がある。 ④校内清掃にはまだ不十分な清掃用具があるのでそれらの購入、更新を行う必要がある。新校舎での教育環境の整備を引き続き進めていく。</p>	<p>③地域には防災に際し数カ所の避難所が存在している。災害等に備えて学校も積極的に地域を含めた防災体制を整えてもらいたい。</p>	<p>①県立学校における教育の情報化に係る学習の情報化に係る学習環境等が先行する状況であるが、運用規定等の校内使用規定等を定めたので授業等での活用を充実させたい。 ③④県教育委員会や地域行政機関と連携し、新校地に係る学校防災及び地域防災の役割を整理したい。</p>	<p>①②教育の情報化に係る整備は機材や通信環境等が先行する状況であるが、運用規定等の校内使用規定等を定めたので授業等での活用を充実させたい。 ③④県教育委員会や地域行政機関と連携し、新校地に係る学校防災及び地域防災の役割を整理したい。</p>